

表 おびひろキッズタウン2017出展企業・団体

企業・団体名	お仕事内容
帯広消防署	消防士(救命士)
帯広警察署	警察官
日本郵便帯広郵便局・西帯広郵便局	郵便局員
北海道新聞社	新聞記者
十勝バス	バス運転手
帯広地方自動車整備振興会	自動車点検
藤森商会	カレー製造・販売
エイムカンパニー	クレープ屋
福原	お菓子屋
北海道コカ・コーラボトリング	カフェ
オカモト	事務局員(案内、館内ツアー)
満寿屋商店	ピザ製造・販売
みかんせい	塾
十勝毎日新聞社	フリーマガジン製作
北海道銀行	銀行員
ヤマト運輸	配送スタッフ
帯広シティーケーブル	リポーター
北海道看護協会十勝支部	看護師
北海道電力帯広支店	電気工事作業員
足寄動物化石博物館	学芸員
とちか薬剤師会	薬剤師
六花亭製菓	パティシエ・販売員
あぐりとかち(帯広畜産大学)	農業体験
帯広信用金庫	銀行員
Guild(ギルド)	大工
帯広市図書館	司書
帯広美容協会	美容師・ネイリスト
帯広市	ボディースील体験・イラストレーター



おびひろっ子学び
イメージキャラクター
「じゃがくまくん」©2013

働く喜び・ 楽しさ体験

おびひろキッズタウン2017

子どもたちが職業体験を通じて、社会の仕組みやお金の価値などを学ぶ場を提供し、未来を担う子どもたちを応援しています。

問い合わせ 青少年課(市庁舎3階) ☎65・4162

子どもの職業体験 おびひろキッズタウン

北海道コカ・コーラボトリングと市は、昨年の11月5日、6回目となるおびひろキッズタウン2017を開催し、市内の小学3、4年生363人が参加しました。

おびひろキッズタウンは、とちかプラザに仮想上のまちをつくり、27の企業・団体(表)と、学生ボランティアの協力のもと、30ブースの中から、子どもたちが自分で選んだ仕事を体験し、給料として受け取った疑似通貨を使って、会場内で食べ物や飲み物などの買い物を行います。

子どもたちは、さまざまな仕事の中から挑戦してみたい職業を選び、実際に台車に荷物を積んで配達と集荷の仕事をしたり、カップケーキをデコレーションし販売するなど、働くことの喜びや苦労、買い物楽しさなど、社会の仕組みを学びました。

参加した子どもたちからは「将来なりたいと思うていた仕事を経験できた」「自分で働いて物を買うということが分かった」などの声がかれました。



大切な荷物をみんなで届ける



気分は本物のお菓子屋さん



初めてのバス運転席に緊張



預かった大事なお金を確認中

市長コラム

夢かなうまち おびひろ

一体感

帯広市長 米沢 則寿



市民の皆さんとまちづくりについて考える「地区懇談会」。市長就任以来の8年間の開催回数は64回、延べ参加人数は2000人に上りました。これまで、平成22年度の「フードバレーとかち」を皮切りに、「少子高齢化社会」や「十勝・帯広の元気」などをテーマに、毎年、懇談会を開催してきました。わざわざ会場に足を運んでくださった皆さんが、懇談会に来たことで「これまで知らなかったことが理解できた」、あるいは「自分の意見を伝えることができた」など、「参加してよかった」と、充実感を持っていただけた形にしたい。

参加者からいただいたアンケートやご意見を参考にしながら、毎年、市民の皆さんが関心を持っているテーマを模索し、懇談会の進め方や、堅苦しくならない会場の雰囲気づくりなどについても、試行錯誤を重ねてきました。

平成27年度は、市民の生活に身近で関心のあるテーマで懇談会を開催しようと、公共料金など、生活に係る都市間のデータの比較などをしながら、日々の生活の中で「しあわせ」を実感できる共通の礎について確認しました。

昨年度の懇談会のテーマは、市に寄せられる苦情件数が最も多い「除雪」でした。「除雪をテーマにしたら、懇談会が苦情の嵐になりはしないか」。市役所内では正直こんな意見もありました。

地区懇談会は、市民の皆さんの意見を聞くことはもとより、われわれ行政が行っている取り組みを市民の皆さんに分かりやすく説明し、正しく理解していただける貴重な機会でもあると考えています。懇談会では、近隣町との除雪基準などの比較を行いながら、皆さんに理解と協力をお願いしたい事項も含めて、市の除雪体制について分かりやすい説明に努めた結果、心配していた苦情はほとんどなく、むしろ前向きで建設的な意見を多くいただき、小型除雪機の無料貸し出しをはじめとする三つの新しい取り組みにつながりました。

「防災」と「子育て」をテーマに開催した今年度の懇談会では、これまで2割に満たなかった若い世代の参加割合が、4割にまで上昇しました。「発言していいのか迷ったけれど大丈夫な雰囲気なので安心しました」「これからは一人で悩まずに市に相談します」など、これまでの試行錯誤が報われる、うれしい言葉をいただきました。

地道かもしれませんが、こうした真摯な取り組みの積み重ねにより、行政と市民との一体感が少しずつ深まるのだと実感しています。